

# 中学3年 英語科「The Great Pacific Garbage Patch」

柏市立柏第二中学校 相馬 匠

## 1. 自己調整を意識した授業づくり

- 生徒自身が学習課題と目標を主体的に設定し、自分の力で学習を進める力（自己調整力）を育成することをねらいとする。
  - 英語でのディスカッションを通して、「自分の意見を言う力」だけでなく、「他者の意見を踏まえて考え、結論を導く力」を身に付ける。
  - 単元の目標に加え、英検、受験、将来の英語活用などを見据えた長期的な学習目標を生徒自身が設定し、それを日々の授業の学習活動に接続させることで、目的意識をもった学習態度を育てる。
- 本時のポイント（ディスカッション活動／自由進度的な学習）
- 授業の冒頭に、改めて授業コンセプト（すべての英語学習をこの単元に集約し、単元はあくまで教員が示す最小限のゴールである）を丁寧に説明した。その上で、単元外の目標であっても、客観的に達成度を判断できるものであれば、生徒自身が自由に目標を設定できることを再確認した。
  - To Do の設定にあたっては、近くの生徒同士で内容を確認し合い、「やろうと思えば家庭学習でも実施可能な To Do」を明確にさせた。さらに、学習の予定を細かく確認し、どこからどこまでの範囲でパフォーマンステストを受けることが可能なのかを具体的に把握させ、学習計画の見通しを立てられる状態を整えた。
- これまで支援してきたこと（放任とまらないための手立て）
- これまでの自由進度的な学習の実践を通して、生徒自身が目標や To Do を設定し、学習を進める流れはすでに定着している。
  - 教員は生徒の進行状況を把握し、必要に応じて個別に声かけや修正支援を行い、放任状態とまらないよう働きかけてきた。
  - チェックシートや記録シートによって、進行状況の見える化を行い、生徒の学習行動を適切にモニタリングする体制を継続している。
  - 教員は目標設定の再確認や学習方法の具体的な提示を通して、生徒が学習の途中で立ち止まらないようにする支援を行っている。
  - そのために、教材へのアクセスをできる限りシンプルな操作で行える環境を整備し、迷わず次の行動に移れるようにしている。
  - ルーブリックを事前に共有し、どの程度できれば話し合いとして成立するのかを明示することで、生徒が目標を見失わず、学習の方向性を自分で判断できるようにする支援を行っている。

■ 本時で設定したレベル

- ・ ディスカッションでは、単なる意見交換にとどまらず、協働して結論を導く段階までを目標としている。

子供へ委ねる段階	1	2	3	4
課題	教師が課題を決める	子供に選択肢から選ばせる	子供が選択肢をつくり、選ぶ	子供が自分で課題を決める
過程	教師が意識して過程を回す	過程の一部を子供が回す	ほぼ子供の意思決定で過程を回す	全て子供の意思決定で過程を回す
形態 (個別・協働)	教師が誰とどう学ぶかを決める	過程の一部で誰とどう学ぶかを子供が決める	過程のほぼ全てで誰とどう学ぶかを子供が決める	全ての過程で誰とどう学ぶかを子供が決める
ツール	教師が何を使うかを決める	子供に選択肢から選ばせる	ほぼ子供が自分で使うツールを決める	子供が自分でツールを決める
空間	教師が学びの空間を決める	子供に選択肢から選ばせる	ほぼ子供が自分で学ぶ空間を決める	子供が自分で学ぶ空間を決める
ペース	全員同じペースで学ぶ	一部学びたいペースで学ぶ	子供がほぼ学びたいペースで学ぶ	子供が学びたいペースで学ぶ

2. 実践の流れ（報告書①との関係）

本実践の授業構成や学習の流れは、前回までに継続して取り組んできた自由進度的な学習の実践とほぼ同様である。

単元の目標を提示し、生徒が To Do リストをもとに学習内容や順序を選択しながら学習を進め、教員が見取りと声かけによって支援するという基本的な枠組みに変更はない。

今回は、授業の流れや方法を大きく変えるのではなく、目標設定の考え方のみを拡張した点に特徴がある。

3. 目標設定に関する変更点

前回までは、単元内の目標（単元テストやパフォーマンステスト）を中心に学習計画を立てさせていた。

今回はこれに加え、英検、受験、将来の英語使用など、単元の進捗や内容と直接関係のない目標であっても、生徒自身が意味を見いだして設定したものであれば学習目標として認め、その達成に向けた学習を To Do に含めてよいとした。

4. 子どもの変容（成果）

その結果、全体の約2割の生徒において、単元の進捗とは直接関係のない目標を自ら設定し、その達成に向けた To Do を実行する姿が見られるようになった。

具体的には、

- ・進研ゼミなどの家庭学習教材を To Do に組み込む
- ・一定期間内に覚える単語数を自分で決めて学習する
- ・単元外の内容であっても、自分に必要だと判断した学習を計画的に進める

といった行動が確認された。

これらの生徒は、

「与えられた目標に向かって学習する」段階から、

「自分で目標を決め、自分ですべきことを考えて実行する」学習へと移行しつつあると考えられる。

The image shows two pages of student work. The left page is a handwritten document with the following sections:

- Objectives:** 1. You understand how to use "who", "which" and "that". 2. You can read and comprehend Program6. 3. Learn to give your opinion based on others' ideas.
- Your aim:** 単語をこの期間で50個覚える。(毎日親にテスト(1枚ろう))
- Rubric:** A table with columns for Grammar&New Words, 知識技能, Discussion, and others. The 'Goal' row has handwritten notes and red 'OK' stamps.
- Your Goal (Goalより大きく新しいものにしよう):** A handwritten goal.
- To Do:** A list of tasks with red checkmarks and stamps. Tasks include 'ワークを終わらせる', '単語を覚える', '単語アプリを使う', etc.
- Evaluation:** A table with rows 1, 2, 3 and columns for evaluation. Row 2 has a score of 0.8.
- Reflection:** A handwritten reflection on the student's progress and challenges.
- Check 授業使用欄:** A table with checkboxes for various criteria like '目標の明確化', '結果・達成度', etc.

The right page is similar but with different handwritten content:

- Your aim:** 2. You can read and comprehend Program6. 3. Learn to give your opinion based on others' ideas.
- Your aim:** 2. You can read and comprehend Program6. 3. Learn to give your opinion based on others' ideas.
- Rubric:** Similar table structure to the left page.
- Your Goal (Goalより大きく新しいものにしよう):** A handwritten goal.
- To Do:** A list of tasks with red checkmarks and stamps.
- Evaluation:** A table with rows 1, 2, 3 and columns for evaluation. Row 2 has a score of 0.8.
- Reflection:** A handwritten reflection.
- Check 授業使用欄:** A table with checkboxes for various criteria.

図 生徒が作成した目標と to do リスト

## 5. まとめ (簡潔版)

本実践では、授業の流れや方法自体は大きく変えず、目標設定の自由度を高めることで、生徒の自己調整の射程を広げた。

その結果、すべての生徒ではないものの、

自ら目標を設定し、単元の枠を越えて学習を進める生徒が一定数見られるようになった点に、本実践の成果がある。